

業 務 状 況 説 明 書

(令和2年4月1日～令和2年9月30日)

1 事業の概要

令和2年度上半期の有収水量（見込み）は819,206m³となり、令和元年度の下
半期と比較すると20,930m³増加する見込みです。また、令和元年度の上半期と比
較すると、26,604m³の増加となる見込みです。

令和2年9月30日現在の水洗化人口（見込み）は17,679人で、令和2年3月
31日現在と比較すると35人減少し、令和元年9月30日現在と比較すると140人
減少する見込みです。

2 経理の状況

(1) 収益的収入及び支出の経理の状況

令和2年度上半期の収益的収入の調定済額は324,878,242円で、予算現
額に対する執行率は41.0%です。また、長期前受金戻入を除いた場合の予算現額
に対する執行率は、63.8%になります。

令和2年度上半期の収益的支出の支出負担行為済額は139,260,044円で、
予算現額に対する執行率は18.0%です。また、減価償却費を除いた場合の予算現
額に対する執行率は、40.9%になります。

(2) 資本的収入及び支出の経理の状況

令和2年度上半期の資本的収入の調定済額は8,554,233円で、予算現額に
対する執行率は4.2%です。

令和2年度上半期の資本的支出の支出負担行為済額は181,033,271円で、
予算現額に対する執行率は39.6%です。

3 令和元年度の決算の状況

令和元年度の下水道事業特別会計の歳入決算額は821,755,082円、歳出決
算額は778,570,402円で、歳入決算額から歳出決算額を差し引いた形式収支
は43,184,680円の黒字になり、ここから翌年度に繰り越すべき財源1,50
0,000円を差し引いた実質収支は41,684,680円の黒字になりました。

なお、令和2年度から下水道事業に地方公営企業法の財務規定等を適用するため、令
和元年度の下水道事業特別会計は打切り決算を実施し、形式収支の43,184,68
0円は、地方公営企業法の規定により設置した下水道事業会計に引き継ぎました。

(1) 下水道使用料の状況

令和元年度の年間有収水量は1,587千 m^3 で、平成30年度と比較すると40千 m^3 減少しました。

また、下水道使用料の収入額は217,428,530円となり、平成30年度と比較すると27,670,200円の減額となりましたが、これは、年間有収水量が減少したことによるほか、令和2年度から下水道事業に地方公営企業法の財務規定等を適用するに当たって打切り決算を実施したことが影響しています。

(2) 主な建設改良工事等の状況

- ・ 汚水枝線整備工事

汚水管きよを0.3km布設し、その結果、汚水管きよの総延長は、107.6kmになりました。

- ・ 大池調整池整備工事

文違地先に設置した大池調整池の整備工事を行い、大池排水区の浸水被害の防止を図りました。

- ・ 公共下水道ストックマネジメント計画の策定

将来の下水道施設の老朽化に備えるため、下水道施設を効率よく改修するためのストックマネジメント計画を策定しました。